



# 首都大学東京 大学院 社会科学部 社会科学研究科



## 経営学演習 「企業倫理論」 #14 § 21世紀の企業倫理、自然への回帰 §

2014年7月25日

岡本 享二 (おかもと きょうじ)  
ブレーメン・コンサルティング(株)

# 本日の講義ポイント

- 企業倫理を論じる時、現在顕在化している諸問題を解決することも大切だが、モグラたたきのように次々と新たな社会問題が発生するであろう。問題の本質を探り、それを解決することが求められる。
- 最大の本質的問題として『行き過ぎた資本主義』を取り上げた。
- 世界中に繁栄(?)をもたらせた資本主義を言下に糾弾し、変更することはなかなか困難である。しかし、新たな息吹が起こっていることも事実である。
- 『金融資本主義』から『自然資本主義』へ
- 『グリーンエコノミー』から『ブルーエコノミー』へ
- 『生態系や生物多様性に学ぶ経営』
- 日本の文化、芸術、武道、芸事の見直し

# 日本文化の見直しと日本再生

2013年1月22日、新聞の片隅にアメリカのアタリ(Atari Inc.)が倒産した記事があった。この会社は25年ほど前、私がアメリカに行っていたころ、現地で頻繁にテレビ宣伝をしていた三大ゲームメーカーのひとつだった。その三つとはアタリ、アミーガ、アップルである。当時のアップルは一部のマニアに受ける「ゲーム界のオタク的な会社」だった。その後、アップルは途方もない巨大企業になったのはご存じのとおりだ。当時、それを予測できた人は誰もいない。同じように25年後の将来を予測することはもっと難しい！

確実に言えることはITCの益々の発展と、それに伴う社会の変化だ。地球環境の悪化も目を見張るものがあるだろう。北京の道路は昼間でもライトをつけないと50メートル先が見えなくて危険だという、異常な大気汚染も資本主義のなせる技だ（中国で！）。

こういう時代だからこそ、企業倫理、個々人の倫理が問われている。コンプライアンス、ガバナンス、リスクマネジメント等、法律や規制のあるものはそれらを遵守するのは当たり前として、地球規模でのグローバルな問題解決こそ喫緊の課題だ。資本主義下のグローバル化こそ、社会問題や環境問題の根源である。それを解決できるのは時代に合った自然回帰であろう。

## 東北大学・環境科学研究科 石田秀輝教授 古川柳蔵准教授の 「90歳ヒアリング」がグッドデザイン・未来づくりデザイン賞を受賞

2013年11月 8日 13:50 | [受賞](#) , [受賞・成果等](#)

現在の90歳は環境負荷が現在の半分以下だった戦前に成人した「連綿と日本に受け継がれてきた、自然と共に生きる暮らしを覚えている世代」です。このヒアリングでは90歳前後の高齢者に当時の暮らしについて聞き、当時のライフスタイルのヒントを探し出し、現代版に焼き直す形で新しいライフスタイルを創り出します。また、失われつつある先人から伝承されてきた知恵、地域の文化や暮らし方から、現代の社会でも受け入れられる新しいライフスタイルや被災地を含めたまちづくりをデザインします。

今回の受賞では、日本の「もったいない文化」など、必然として受け継がれていたサステイナブルな考えを過去の産物に止めず、大切な日本の財産としてとらえ、継続的な仕組みとして活かそうとするアイデアに高評価を頂きました。グッドデザイン・未来づくりデザイン賞は、2013年度から新たに設けられた賞で、来るべき社会の礎を築くと認められるデザインに対して贈られます。

# ディスカッション #14

- 企業倫理の確立には「コンプライアンス」「ガバナンス」「リスク管理」を遵守する、言わば守りの対応と、企業倫理の本質に迫る自然から学ぶバイオミクリーやネイチャー・テクノロジー、すなわちGunterの提案するブルーエコノミー (BE) があります。あなたの仕事(企業)にBEを活かせそうですか？
- バイオミクリーやネイチャー・テクノロジー(ブルーエコノミー)は製造業では積極的に研究が進んでいます。  
皆さんの知っている事例がありますか？
- 自然から学ぶ発想は従来の科学技術を駆使した力づくの産業と、どのような相違点があるのでしょうか？